**『大衆文化』創刊準備号　目次　　（2008年3月）**

* 創刊の辞　／　藤井淑禎
* 庶民モラルとしての「任侠」とは何か

―佐藤忠男『長谷川伸論―義理人情とは何か―』をめぐって　／　筒井清忠

* 市川昆の「こころ」　／　藤井淑禎
* 舞台劇『放浪記』をめぐって―テクスト〈林芙美子〉の行方　／　羽矢みずき
* 雲を凌ぐ―「押絵と旅する男」と浅草十二階　／　丹羽みさと
* 大衆娯楽雑誌『平凡』と評論家大宅壮一―ふたつの研究から見えてくるもの　／　阪本博志
* 中国における日本の大衆文化研究の現状と展望　／　王成
* 江戸サブカル紀行―八百屋お七と岡山　／　渡辺憲司
* 翻刻「二銭銅貨」　／　落合教幸・藤井淑禎

**『大衆文化』創刊号　目次　　（2009年4月）**

* 巻頭エッセイ／「二十面相」世代の乱歩観　／　紀田順一郎
* 酸素カフェテリアと―大衆情報消費社会における酸素マスク表象 ／ 原克
* 乱歩と大東京　／　藤井淑禎
* 「九州演劇」とその時代　／　石川巧
* 日本におけるルバーシカ着用の起源をめぐって　／　小林実
* 昭和十四年、「犯人」形成の新たな試み―江戸川乱歩「暗黒星」論　／　落合教幸
* 韓国における論介と春香の受容　／　岩谷めぐみ
* 天満天神繁昌亭の成立と展開　／　恩田雅和
* 歌舞伎としての乱歩―小説『人間豹』から歌舞伎『江戸宵闇妖鉤爪』へ　／　松本和也
* 韓国における日本大衆文化の受容について　／　金惠珍

**『大衆文化』第二号　目次　　（2009年9月）**

* 翻刻「Ｄ坂の殺人事件」草稿　／　落合教幸
* ｢依頼型｣から｢巻き込まれ型｣へ―江戸川乱歩｢Ｄ坂の殺人事件｣草稿覚書　／　落合教幸
* 校門の外をめざした学校唱歌―卒業式による広報戦略　／　有本真紀
* 「月の砂漠」の系譜学―流行歌とアラビア表象　／　舌津智之
* 貸本屋と読書サークルの時代―吉川英治『宮本武蔵』と大衆読者　／　藤井淑禎
* オバマ報道を考える　／　黄盛彬
* 戦後台湾における日本大衆文化の受容―アイデンティティの構築と脱構築　／　林鴻亦
* 「九州演劇」総目次　／　石川巧

**『大衆文化』第三号　目次　　（2010年4月）**

* 中国の芝居の文系男子問題　／　細井尚子
* メディアミクス文化史のなかの江戸川乱歩と横溝正史　／　江藤茂博
* 映画のなかのカメラ　／　三浦雅弘
* 俳諧大衆化の二方向―形式の縮小化と数量の拡大化　／　加藤定彦
* 大宅壮一の文化大革命レポート　／　藤井淑禎
* ワルキューレはさまよう　／　平山城児
* 見るものと見られるものをめぐって―結城座『乱歩・白昼夢』　／　後藤隆基
* 翻刻「人間椅子」草稿　／　落合教幸

**『大衆文化』第四号　目次　　（2010年9月）**

* 大衆メディア史を反射する「鏡の女」―女優・ひし美ゆり子の足跡　／　樋口尚文
* 嬰殺旗本探偵実話 断ち切られたものたちの闇　／　浜田雄介
* 窯変・橋本治―告白　／　後藤和彦
* 「男女共同参画社会」をめぐる一考察―「第三次男女共同参画基本計画」策定の年にあたって　／　近藤弘
* 『風と共に去りぬ』と戦後日本人　／　藤井淑禎
* 『 一名 親父肝潰誌』という書物　／　池田一彦
* 『明烏後正夢』における説教祭文の受容―人情本と大衆芸能　／　坂口香惠

**『大衆文化』第五号　目次　　（2011年4月）**

* パノラマ文化史管見―『パノラマ島奇談』の余白に　／　副島博彦
* ルパン誕生前のルブラン―スピードの魅惑　／　坂本浩也
* 漢字と日本語・日本語教育　／　沖森卓也
* 大衆作家が描いた〈安保〉―石坂洋次郎『あいつと私』と舟橋聖一『エネルギイ』／　藤井淑禎
* 円朝の　／　宮信明
* 砂書房版『松本清張研究』奮闘記　／　田中伸和
* 翻刻「活動写真のトリツクを論ず。」　／　落合教幸

**『大衆文化』第六号　目次　　（2011年9月）**

* 飄亭、不折、子規と三陸大津波―「海嘯」十四句をめぐって　／　加藤定彦
* がの青い空・再説―『行人』『心』、二つの鎌倉　／　藤井淑禎
* オペラへの迷い言　／　守屋省吾
* 占領期の大宅壮一をめぐる「点と線」　／　阪本博志
* 大正期における『歌舞伎新報』の復活　／　後藤隆基
* 翻刻「映画論」　／　落合教幸

**『大衆文化』第七号　目次　　（2012年4月）**

* 原発建設時代の日本のＳＦアニメ　／　秦剛
* 熊谷市冑山に残る歴史遺産―根岸家住宅長屋門について　／　横山晋一
* 三島由紀夫VS.増村保造―映画「からっ風野郎」とその後の三島の身体イメージをめぐって　／　安智史
* 映画『男はつらいよ』にみる活版印刷　／　滝口富夫
* 『女の一生』はなぜ『人形の家』に勝てたのか　／　藤井淑禎
* 俵藤丈夫編集長下の『歌舞伎新報』　／　後藤隆基
* サイレント映画脚本の周辺　／　若井尚子
* 翻刻「トリック写真の研究」　／　落合教幸

**『大衆文化』第八号　目次　　（2013年1月）**

* 映像メディアの力―中国における清張ミステリーの受容　／　王成
* スキャンダルの両義性―明治の女学生バッシングから「新しい女」へ　／　岡田明子
* 川上音二郎と竹越與三郎　／　後藤隆基
* 囚われない三三―「柳家三三で北村薫。」評　／　大塩竜也
* 翻刻「死」　／　落合教幸

**『大衆文化』第九号　目次　　（2013年9月）**

* 〈文壇作家〉時代の松本清張・Ⅰ――「多芸は無芸」の危うさのなかで―― ／ 藤井淑禎
* 『ソヴェト文化』総目次　／　吉田則昭
* 二代目団十郎と江戸の開帳興行――不動明王を中心に――　／　ビュールク・トーヴェ
* 《資料紹介》亀井勝一郎「読書の態度と実際」（一九四二年）―翻刻と解題　／　赤堀杏奈
* 江戸川乱歩『心理試験』の精神分析――典拠から技法へ、すなわちユングからラカンへ――　／　中原雅人
* 翻刻「踊る一寸法師」草稿　／　落合教幸

**『大衆文化』第十号　目次　　（2014年3月）**

* 日本人の蔵書志向と江戸川乱歩　　／　　紀田順一郎
* ポンスから二十面相へ――蒐集家としての怪盗の肖像――　／　菅谷憲興
* 夏目漱石『門』の御米について　／　藤井淑禎
* 〈老い〉の中の獅子文六／岩田豊雄――『可否道』「出る幕」――　／　米山大樹
* 《資料紹介》中学生時代の大宅壮一――時事新報社発行の雑誌『少年』への投稿活動と学業成績――　／　阪本博志
* 《資料紹介》江戸川乱歩・野村胡堂往復書簡――黒岩涙香本をめぐって―― ／ 丹羽みさと
* 《資料紹介》井上良夫宛江戸川乱歩書簡　／　落合教幸

**『大衆文化』第十一号　目次　　（2014年9月）**

* 啄木短歌における大衆性について　／　太田登
* 吉永小百合主演映画とベテラン俳優宇野重吉の役割――「愛と死をみつめて」（昭和三九）の場合を中心として――　／　藤井淑禎
* 戦後日本における海外短波放送のリスナー　／　井川充雄
* 文学の中の「骨相学」――夢野久作『ドグラ・マグラ』から　／　鈴木優作
* 沖野岩三郎の〈実話もの童話〉　／　六川綾夏
* 《資料紹介》『貼雑年譜』に見る江戸川乱歩と山手樹一郎の交流　／　影山亮
* 《資料紹介》井上良夫宛江戸川乱歩書簡（２）　／　落合教幸

**『大衆文化』第十二号　目次　　（2015年3月）**

* 旧小中野遊郭の新むつ旅館（新陸奥楼）　／　渡辺憲司
* 職業作家・松本清張の出発――全集未収録小説｢女に憑かれた男｣、｢渓流｣を読む　／　石川巧
* 日本統治時代の台湾におけるラジオ体操　／　井川充雄
* 松本清張と「連環画」との遭遇――イメージの増殖と変容　／　尹芷汐
* 「蛇性の婬」における雄黄について　／　相馬真理子
* 旧制茨木中学校における一九二〇年のストライキと大宅壮一　／　阪本博志
* 《資料紹介》翻刻「恐ろしき錯誤」草稿　／　落合教幸

**『大衆文化』第十三号　目次　　（2015年9月）**

* 乱歩邸の旧所有者坂一族について　／　藤井淑禎
* 巨大ターミナル池袋の変遷とゆくえ　／　古田土紗季
* 戦後池袋演劇史――アバンギャルドと池袋文化劇場　／　後藤隆基
* 《資料紹介》昭和二十年、罹災直後の数通の手紙――江戸川乱歩の空襲体験 ／ 落合教幸

**『大衆文化』第十四号　目次　　（2016年3月）**

特集《池袋＝自由文化都市プロジェクト》戦後池袋――ヤミ市から自由文化都市へ――

* 「戦後池袋――ヤミ市から自由文化都市へ――」展示企画展報告　／　石川巧
* 「不滅の江戸川乱歩展」報告　／　北村一男
* 秋の収蔵資料展「池袋ヤミ市と戦後の復興」について　／　横山恵美
* ｢池袋＝自由文化都市プロジェクト｣における立教学院展示館の展示について ／ 豊田雅幸
* 池袋の戦後史をめぐる〈場〉とにぎわいの創出――｢池袋＝自由文化都市プロジェクト｣にみる大学の地域連携の道筋　／　後藤隆基
* 旧江戸川乱歩邸特別公開　／　落合教幸
* 《資料紹介》鏡地獄――江戸川乱歩「鏡地獄」戦後改稿版　／　落合教幸

**『大衆文化』第十五号　目次　　（2016年12月）**

* 戦後池袋の娯楽文化とロサ会館　／　伊部知顕
* 都市における地域学としての「池袋学」の可能性（一）――立教大学と東京芸術劇場による地域連携の実践　／　後藤隆基
* 飢えと混乱を生きること――梅崎春生「飢えの季節」論――　／　渡部裕太
* 《資料紹介》江戸川乱歩の創作ノート（昭和三十年）――「化人幻戯」「影男」「月と手袋」『十字路』と少年探偵　／　落合教幸

**『大衆文化』第十六号　目次　　（2017年3月）**

特集　二〇一六年の江戸川乱歩関連展示

* 江戸川乱歩、パリにやって来た。　／　ジェラルド・ブルー
* 異なるジャンル、共通する感覚――萩原朔太郎生誕百三十年記念・前橋文学館特別企画展「パノラマ・ジオラマ・グロテスク――江戸川乱歩と萩原朔太郎」を開催して　／　津島千絵
* 特別展「ビブリア古書堂の事件手帖」を開催して　／　小田島一弘
* 「日本ミステリー文学展～藤田宜永からの招待状～」を振り返って　／　尾崎秀甫
* 解放後の韓国における大衆芸能に関する一考察――薬売り・パルタル・女性芸能団体の再評価――　／　神野知恵
* カルチュラル・アサイラム――中国インディペンデント・ドキュメンタリーの透明な砦　／　秋山珠子
* 《資料紹介》大正末期から昭和初期における探偵小説と演劇の交差――江戸川乱歩宛長谷川伸書簡群を視座として　／　後藤隆基
* 《資料紹介》仁木悦子・江戸川乱歩書　／　落合教幸

**『大衆文化』第十七号　目次　　（2018年1月）**

* 『高見順全集』未収録小説。「眞砂子」の紹介・解題　／　松本和也
* 〈資料紹介〉「ダアヰン氏小瘤」翻刻及び解題　／　落合教幸
* 華人文化圏に広がる新劇――オスカー･ワイルド『ウィンダミア夫人の扇』を例に―― ／ 鈴木直子
* 江戸川乱歩自筆稿本『家蔵同性愛関係書』目録１――日本之部――　／　丹羽みさと

**『大衆文化』第十八号　目次　　（2018年3月）**

* 〈天才〉と〈犯罪者〉のあいだ――大正期谷崎作品の人物造型をめぐって――　／　金子明雄
* 遠藤周作の新資料発見「阿弗利加の躰臭」について　／　杉本佳奈
* 「一九五〇年代における雑誌『明星』の連載小説とそのメディアタイアップ展開（付・一九五〇年代『明星』連載小説一覧）」　／　阪本博志
* 江戸川乱歩自筆稿本『家蔵同性愛関係書』目録２――――和本目録、洋書目録、西洋に関するもの、東洋に関するもの――　／　丹羽みさと

**『大衆文化』第十九号　目次　　（2018年10月）**

* 近世の俗文芸と「お竹大日」伝承――文化文政期を中心に――　／　神林尚子
* 日本当時下台湾における時差撤廃とラジオ　／井川充雄
* 戦時下の北京における出版物取締と雑誌『月刊毎日』　／　石川巧
* まなざしへの抵抗――岡崎京子『ヘルタースケルター』論　／村松まりあ
* 「ナイフ」の向かう先――江戸川乱歩「人間椅子」試論――　／　入山洸希
* 〈書評〉『〈ヤミ市〉文化論』書評――眩しい都市　／　川崎賢子
* パネル発表「江戸川乱歩所蔵資料の活用による探偵小説研究」の発表報告

**『大衆文化』第二十号　目次　　（2019年3月）**

* 豊子愷の「詩画」意識と「黒画」批判　／　南雲大悟
* 演歌は「演じる歌」か？――近代日本における大衆音楽と上演文化のミッシング・リンク――

／　輪島裕介

* 「黒蜥蜴」の表象をめぐって――江戸川乱歩『黒蜥蜴』論――／　海老澤彩香
* 〔研究ノート〕挿絵画家としての中村研一　――「海燕」「女の一生」「春の行列」「花と兵隊」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　／　松本和也

* 〈資料紹介〉江戸川乱歩旧蔵『古版奇術書』同梱資料――山本慶一宛・乱歩発書簡控えを中心に

／　米山大樹

**『大衆文化』第二十一号　目次　　（2019年10月）**

* 〔新派再考―新派百三十年記念シンポジウム〕座談会「新派百三十年とその未来」

／　喜多村緑郎・河合雪之丞・齋藤雅文・神山彰（司会）

* 憧れを抱いて芽吹く――大石真「教室二〇五号」論――　／　石橋剛
* 夢野久作の受験生時代とその交友　／　川下俊文
* 植民地朝鮮の「孤立」された作家金来成と江戸川乱歩　／　姜泰雄
* 覗かれるもの／覗くもの――「押絵と旅する男」再考――　／　丹羽みさと

**『大衆文化』第二十二号　目次　　（2020年3月）**

* 佐野史郎氏特別講演記録「乱歩と戦争」　　／　佐野史郎／細井尚子／金子明雄（司会）
* 侍と探偵の蜜月――大衆文学ジャンルの再編成における捕物帳――　／　影山亮
* 新派と歌舞伎のあいだ　――五代目中村芝翫の家庭小説劇をめぐって――　／　金子明雄
* 語る＜女＞と語られる＜女たち＞――永井荷風『つゆのあとさき』における語り論　／　金田みか
* ハイジンの行方――江戸川乱歩「二癈人」論　／　出口歩
* 旅立つ「兄」――江戸川乱歩「押絵と旅する男」論――　／横田遼
* 翻刻「経済学と心理学との関係を論ず。」　／　松本陸杜

**『大衆文化』第二十三号　目次　　（2020年9月）**

* 艶めかしき怪談――江戸川乱歩「人でなしの恋」論（上）　／　石川巧
* 江戸川乱歩「孤島の鬼」の着想を巡って　／　小松史生子
* 岸田國士「かへらじと」を読む　――移動演劇の作劇術　／　松本和也
* 「Pink」から『pink』へ――岡崎京子『pink』論　／　村松まりあ

**『大衆文化』第二十四号　目次　　（2021年3月）**

* 艶めかしき怪談――江戸川乱歩「人でなしの恋」論（下）　／　石川巧
* 犯罪・活動写真・探偵小説――ジゴマ騒動と犯罪フィクションをめぐる言説の再配置――
* ／　井川理
* 撞着する思想と形式――夢野久作『ドグラ・マグラ』を中心として　／　松田祥平
* 占領下の時代小説ジャンルにおける＜新古交代＞言説　　／　影山亮
* 不可視化される占領と強調される戦争体験の残存性――野間宏『崩解感覚』論　　／　秀島希望
* 江戸川乱歩旧蔵資料にみる探偵作家クラブの出発――「レヴュー殺人事件」脚本と乱歩直筆原案を

調査する　／　米山大樹

**『大衆文化』第二十五号　目次　　（2021年9月）**

* 明治末年における西洋美術受容・再考――言説上の印象派＜インプレッショニズム＞・後期印象派＜ポスト・インプレショニズム＞　　／　松本和也
* レジス・メサックの博士論文とヴァルター・ベンヤミン

――探偵小説の起源をめぐって　　／　槙野佳奈子

* 占領を解かれた「宮本武蔵」――新国劇版ラジオドラマを読む（一）　　／　石川巧
* 戦後の宝塚歌劇――植田紳爾の仕事から見る――　　／　王楽水
* 境界としての「からだ」――井上ひさし『シャンハイムーン』論　　／　牛路遥

**『大衆文化』第二十六号　目次　　（2022年3月）**

* 占領を解かれた「宮本武蔵」――新国劇版ラジオドラマを読む（二）　承前　　／　石川巧
* 江戸川乱歩「屋根裏の散歩者」完成地における信仰の様態

――三重県亀山市関町岩屋観音をめぐって――　　／　宮本和歌子

* 童謡はなぜ＜怖い＞のか――言説の背景とその機能について――　　／　井手口彰典
* 影山三郎とアジア――東京帝国大学在学時と立教大学在職時をつなぐもの――　　／　阪本博志
* 『新青年』研究後悔記　　／　浜田雄介
* 勉誠出版『江戸川乱歩大事典』書評――江戸川乱歩研究の基盤構築――／　宮本和歌子
* 翻刻「恐ろしき錯誤プロット」　　／　塩井祥子
* 江戸川乱歩の土蔵内洋書目録――蔵書印のある書籍を中心に――　　／　宮本祐希

**『大衆文化』第二十七号　目次　　（2022年9月）**

* 江戸川乱歩「お化人形」に描かれた神戸　　／　宮本和歌子
* 占領を解かれた「宮本武蔵」――新国劇版ラジオドラマを読む（三）　承前　　／　石川巧
* ＜枠組み＞の崩壊――井上ひさしコントの世界――　　／　牛路遥
* コロナ禍下における堂本光一と『Endless SHOCK』の軌跡　　／　後藤隆基
* 【研究ノート】江戸川乱歩とコナン・ドイルの『シャーロック・ホームズ』

――乱歩による翻訳と論文を中心に――　　／　余玟欣

* 【書評】雑誌文化研究会と『大宅壮一文庫解体新書』　　／　阪本博志

**『大衆文化』第二十八号　目次　　（2023年3月）**

* ［インタビュー］乱歩×ハードロック＝人間椅子　　／　和嶋慎治
* 湖面の恋、湖底の泥――江戸川乱歩と横溝正史、探偵作家が描く＜諏訪湖＞――　　／　小松史生子
* 旅する乱歩――名張・鳥羽編――　　／丹羽みさと
* 江戸川乱歩「屋根裏の散歩者」完成地の本尊と大阪守口からの鉄道経路――三重県亀山市関町岩屋観音をめぐって――　　／　宮本和歌子
* 近現代日本の水上生活者研究史からわかること――「都市民俗学」と大衆文化論の接点について　／　厚香苗
* 江戸川乱歩旧蔵伊藤晴雨述『新派劇の責場』翻刻　　／　後藤隆基